

経営品質の追及から「経営革新」の実践へ

植平工業株式会社 奈良県宇陀郡大宇陀町

「植平工業株式会社」は、創業以来、公共事業に使用される土木工用鉄製品を中心に、製品の製造販売を行ってきた。公共事業の縮小傾向という逆境下でありながら、既存の製造設備、製造技術等を活用しながら、個人需要も視野に入れた耐久消費財の開発に着手し、経営革新を図っている。

植平社長は、「鉄が好き。これからも鉄で生きていきたい」と語り、同社を新たな方向へ導こうとしている。

会社概要



会社名：植平工業株式会社
所在地：奈良県宇陀郡大宇陀町
大東 203-1
電話：0745-83-3011
FAX：0745-83-3045
創業：昭和48年3月
設立：昭和51年1月
代表者：代表取締役社長 植平 修
資本金：1,000万円
従業員：25名
事業内容：金属加工業
グレーチング（鋼製溝蓋）及び一般土木用資材の製造販売業務
URL：<http://www.uehira.com/>
E-mail:info@uehira.com



落石防護柵

グレーチングの製造技術を活かし業務を拡張

大宇陀町の山あいの一角にある、鉄鋼二次製品製造会社「植平工業株式会社」は、創業以来、公共事業に使用される土木工用鉄製品を中心に、製品の製造販売を行ってきた。従来から堅実に商品開発や品質管理を行っており、高い加工技術や充実した製造設備、高い経営品質等を誇っている。

同社は、創業当時の主力商品である「グレーチング（鋼製溝蓋）」の製造技術を活かし、昭和57年、道路災害の防止に着目した落石防護柵の製造販売を開始。翌年、道路交通網の発達による歩・車道分離対策として鋼製張出し歩道の製造販売を開始し、設計施工を行うなど、着実に業務の拡張に努めてきた。これらの取り組みが、型鋼の加工技術を中心に板金加工、溶接、表面処理などの技術蓄積に大きく貢献している。

同社では、中厚板・型鋼の加工全般を内製化できる設備と要員を確保している。特に中厚板のプレス・溶接加工については高性能な加工設備と相まって幅広い（小ロット、短納期、高精度等）受注ニーズに柔軟に対応できる体制を整えている。また、溶接技術・溶接施工管理の資格取得者を多数擁し、高品質な溶接作業も可能。現在、製品の意匠登録を中心に20数件の工業権を所有している。

社内では構造的知識（安定、強度等のデータ）を豊富に蓄積し、技術資料やパンフレット、図面集等も多様に準備している。技術的問い合わせ（強度計算など）に瞬時に対応できるソフトや標準原価を算出できるソフトを開発し、顧客からの照会に迅速に対応している。

優良な財務内容、高い経営品質を誇る

平成11年、ISO9001規格を認証取得し、継続的に品質向上のための業務改善に取り組んでいる。

また同 13 年、ISO14001 規格を認証取得し、環境負荷の低減などにも取り組んでいる。同 16 年 4 月、両マネジメントシステムの自己宣言を開始した。

同社では、優良な財務内容（自己資本比率 59% など）に甘んじず、取引先との連携強化や、経営品質の向上、経営改善等に取り組んでいる。

販売先に対しては、グレーチングという商材にこだわらず、多様な鉄鋼加工品メーカーという認識をもってもらい、関係強化を図る取組みを行なっている。仕入先に対しては、従来から定期的に財務内容、業容などの情報公開に努め、信頼関係を構築してきた。

一方、業績改善に向け、短期的には固定費の削減を実施するとともに、既存顧客へのサービス向上のため営業事務員を増員し、技術教育を継続的に実施している。従来から要員教育には力を入れており、社外の技術コンテストに積極的に参加し、最近は大賞者も多数輩出している。

植平社長は、製造技術のほか損益管理も含め幅広い知識を持ち、研究熱心である。「日本経営品質賞」の経営のあり方に共感を覚え、社長自ら経営品質協議会の認定アセッサーの資格を取得している。「ベンチマークとして見習うべき企業の先進事例を直に学ぶことができます。業種を問わず成功したビジネスモデルについての情報収集を行い、『これは根付く』と感じたものを厳選し、当社への導入を図っています」

このほか、情報共有の一環として、品質異常や顧客苦情の情報（是正処置や対策）は共有すべき情報として社内で開催している。また、全社員に対する決算報告を毎月実施し、生産性の様々な指標や社長の考えなどを含め月次で公開している。

経営品質の追及から「経営革新」の実践へ

同社では、中期的に公共投資関連の資材製造販売の比率を低下させるため、既存の製造設備、製造技術等を活用しながら、個人需要も視野に入れ

た耐久消費財の開発が重要であると考えている。

4 年前に開発した「生ゴミ収集ボックス」は、家庭の生ゴミや可燃ごみの収集方法変更の時期とも重なり、自治体を中心に自治会や個人を顧客として、当初予測を大きく上回る売上げを達成した。

更に本年 6 月、奈良県から経営革新計画の承認を受け、「鉄」の素材が持つ風合いや加工性を活かしたインテリア、エクステリア、ガーデニングの製品を、「手作り」「オーダーメイド」をコンセプトとして製作。新たな鉄製品による新規市場での拡販、および DM・インターネットを活用した新規販売方法の確立を目指す取組みを開始した。

その第一弾の新商品が「メタルサイン」である。基本パターンから注文を受け付けるほか、顧客のスケッチなどを基にオーダーメイドが可能で、鍛冶職人が一品ずつ丁寧に手作りしている。

「経営革新」取組みの第一弾として開発した「メタルサイン」



植平社長は「この取組みを通して、工場部門において手作業の技術伝承を図り、社員に『作る楽しさ』を感じさせたいと思っています。また、事務部門では、PR（広報活動）の IT 化や内製化、取扱説明書のビジュアル化など企画力の向上を目指しており、最終的には業態変更のきっかけになることを期待しています」と語っている。

将来的には大型のエクステリア製品（門扉、手すり等）のマーケットに参入し、その過程で鉄以外の素材（銅、真鍮など）の加工技術を蓄積しながら、これらの鉄器商品を主力製品に成長させたいと考えている。（島田、井阪）